

# 就任ご挨拶

(一社) 家畜改良事業団 理事長 富田 育稔



去る6月28日に開催されました総会、理事会において理事長に選任されました。重責に身の引き締まる思いではありますが、皆様方のご支援をいただきながら職責を果たしてまいり所存ですのでどうぞよろしくお願いいたします。

当団は昨年創立50周年を迎えました。当初、優良種畜の作出とその精液の広域的な配布を基幹的な業務として出発しましたが、時代の変化の中で、雌牛の効率的繁殖利用のための性選別精液やと畜卵巣を活用した体外受精卵の生産など業務を拡大し、効率的かつ付加価値の高い乳・肉用牛生産の推進に尽力してまいりました。また、牛群検定事業の事務局として、乳牛の泌乳データ等の分析・提供により酪農家の経営改善を支援してまいりました。さらに近年は研究開発にも力を注ぎ、DNA解析技術を駆使した親子判定や各種遺伝病の検査に加え、ゲノミック評価による牛の能力判定など、新たな技術を積極的に開発・利用し、我が国家畜改良増殖のさらなる発展に貢献できるよう努力しています。

当団が、半世紀に渡ってこのような活動を続けてこられたのは、ひとえに関係機関、団体並びに畜産農家等多くの方々のご支援とご指導のたまものであり、深く感謝申し上げます。また、時代の変化を見通して新たな技術を積極的に取り入れるなど、歴代役員の時時適切な経営判断とそれを実践してきた職員の努力に心から敬意を表する次第です。

本年は、創立50年の節目の年からの新たなスタートとなりますが、新型コロナウイルスの感染拡大によるインバウンド需要の減退や生乳の需給緩和が続く中、ウクライナ危機の勃発は飼料・燃油等の生産資材の高騰に拍車をかけ、畜産経営をめぐる情勢は近年になく厳しさを増しています。また、食料安全保障の必要性が叫ばれる中、高齢化や後継者不足による飼養戸数の減少に歯止めがかからず、生産基盤の強化は引き続き

喫緊の課題となっています。

一方、家畜改良をめぐる課題は山積しています。乳用牛については、飼養頭数が増加傾向にある中、精液の輸入が増加する一方、国産精液の配付本数が減少しています。海外でのゲノミック評価の進展と改良のスピードアップ、評価形質の多様性が我が国生産者にも受け入れられているからであると思われませんが、我が国の乳用牛改良が海外頼みになってしまってはなりません。我が国でも早急にゲノミック評価体制を確立し、生産者ニーズに合致した選ばれる種雄牛作りを推進することが重要です。家畜改良センター・登録協会・家畜人工授精事業体で設立された乳用牛改良推進協議会や行政・関係機関が一体となって取り組むべき課題であると考えています。

また、肉用牛につきましては、脂肪交雑や枝肉重量に関する改良が急速に進み、肉用牛農家の生産性向上や所得確保に大きく貢献してきたと考えていますが、A5等級の割合が5割を超える状況の中で、次に目指すべき方向性を探ることが求められています。流通面では牛肉の食味向上につながる遺伝能力評価、生産面では生時体重や発育の違いによる生産性向上等が視野に入ってくるのではないのでしょうか。

このような情勢の中、畜産現場に生産性向上に資する繁殖資材やサービスをお届けし、酪農・肉用牛農家の所得向上を下支えする当団の役割はいささかも揺るぐものではないと確信しています。当団は、次の50年も、これまで培ってきた技術、製品、情報等を最大限に活かし、畜産農家から信頼されるよきパートナーとなり、我が国家畜改良事業の中軸を担い、その推進に責任をもって取り組み、我が国畜産の発展に貢献することを使命として取り組んでまいります。酪農・肉用牛農家の皆様はもとより、会員はじめ関係機関の皆様には、従前にも増してご支援、ご協力をいただきますようお願いしまして、私の就任のご挨拶といたします。